

## 第2回池田町・地方創生戦略町民会議 議事概要

- 開催日時 令和2年6月24日(水) 14:00~17:00
- 場 所 能楽の里文化交流会館2階 大会議室(小会議室・応接室)
- 出席者 委員16名(うち1名遠隔参加) 行政10名 事務局6名
- 傍聴人 町民8名

### □ 開会

### □ 委員長挨拶

本日は第2回目の地方創生戦略町民会議となるが、新型コロナウイルス感染症につき、アフターコロナやポストコロナの社会と言われ出した。国や自治体からも「新しい生活様式」と言われ、また、3密を防ぐ、マスクをする、など事細かにガイドラインで定められているが、コロナの事態を受けて、我々の社会がこれからどうなっていくのかということがある。「密から疎へ」という言葉もあるが、人間同士のつながりや私たちが持つ価値観や考え方も多少は見直していかなければならないかもしれない。

今回は「すみか」がテーマだが、働き方や暮らし方も変わってくるかもしれないし、もしかしたら、昔持っていたものに改めて光が当たったり、良さが見直されたりするのかもしれない。いずれにしても、この3ヶ月ほどで、テレワークなど働き方の形態も多様になり、職業の「職」と「住む」が一緒になる「職住一致」ということもこれから盛んに言われるようになるのではと思う。本日はグループワークが後にあるが、前に進めるような議論ができたらと思う。

### □ 資料説明

- (1) 前回の振り返り
- (2) 「すみか」(居住空間の確保)についての事業実施状況について  
担当が資料に沿って説明

### □ グループワーク(小会議室・応接室)

### □ 全体意見交換会

テーマ1: 町営住宅の整備

#### グループ1の発表

- 町営住宅に入居する人たちがどう地域に溶け込めるかは、共同作業の達成感、作業後の食事などの楽しさで地域との関わりを深められる。
- 空き家等にも関わるが、町営住宅に入っている人が地域の人とつながるためには、「きっかけは人」、「人が大事」である。田舎に住みたいと思う方は、人と関わりたくないとは思わないだろうから、地域と移住者をつなげるおせっかいな在所の人が説明をしたり、地域に積極的に引っ張り出したりしていけば、もっと地域と関わることはできるのではないか。
- 若者が多く住む町営住宅のある地域では、地域の人にとっても、「若者が住む」(別世界の) 感覚なので地域の活動に関わってもらうという意識が少ない。

#### グループ2の発表

- 町外から移住されてきた方は、配偶者が池田町出身で、知り合いや親が近くにいたので助かっているということで、地域の中でつながりをもってくれる人がいないと難しい。
- 集落の行事は土日に行われることが多く、仕事の都合等で参加できない人は地域とのコミュニケーションが取りにくい。町内の職場で土日に営業しているところは、地域の行事に参加できるようなシフトを考慮する必要がある。
- 家賃等については町民から見ても羨ましいくらい安い。今後の整備については、集合住宅は若い人同士が近く、学校も近く、子ども同士が仲良くなり、親同士も仲良くなればいい。集落内の一戸建ての町営住宅は、希望する集落に2件位は建てる必要があるのではないか。
- コロナの影響で在宅での勤務もとれるような、光など通信網の整備・環境にしていると、池田に住みながら仕事もできるという人を呼び込めるのではないか。
- (行政が中心となるばかりでなく、民間の意見も取り入れて、建物も民間に設計などお願いしていくといいのではないか。
- 当面の間は各集落の機能が維持していける形での地方創生を探っていく必要がある。

#### グループ3の発表

- 町営住宅につき、更新満期は、大学卒業までや18歳より早く、また、10年程度の区切りなどにしてもいいのではないか。

- 集落の人とのコミュニケーションに関し、区費の軽減（3年間は区費半額）などを導入している区もある。転入者を仲間に入れるために同世代の人が声をかける取り組みをしたり、集落が元気になるように子どもに帰ってきてもらったりする。
- 町営住宅については、集落のルールなどの行き違いがあるので、「集落とのやり取り」が重要ではないか。
- 暮 LASSEL も、区長さん等に話がいかないため、情報を持っている人がやり取りし、池田町全体でサポートすればもう少し登録数も増えてくるのではないか。
- もう少し空き家や空き地をうまく有効に活用するためには集落の情報も役場に提供する仕組み・管理のやり方もいいのではないか。
- 冠婚葬祭の時など集落のルールブックを作成し、転入者に対しても集落のルールを提示すれば便利だ。屋号掲載の集落の電話帳も必要であると感じた。

委員長：発表ありがとうございました。移住する人の気持ちになると「不安」が多いと思う。移住する人が何を求めているか、移住する人のライフスタイル、世代、年齢、家族形態、池田に縁のある人やない人などで、対応が違ってくると思う。

私の経験によると、若い時は仕事が重要な住まいを探すポイントになり、その次は子育てになり、子どもを介していろいろな付き合いがある。世話焼きの人が必ず町にいて、少々おせっかいだが、あれこれ気を遣ってもらうのは大事なことで、地域の様子やまちのルールやしきたりがあることが分かる。

結局、住む人が、どういう世代か、どういう形態かなどそれぞれ違うと思うので、受け入れ側がどう対応していくのか整理しておく必要があると思う。

副町長：移住者を強く希望している所、余り希望していない所、その間の所と集落に温度差がある気がするが、どの集落も移住者を求めていると思って進めればいいのか、子どもがいる世帯がきて欲しいとかどう思っているのか聞きたい。

委員：自分の集落には二組移住しているが、二組とも区の行事にも参加されるし、近所の方とお話もされているし、本人も気に入っていて楽しく過ごしている。良い人が入ってきてくれてよかったと思っている。ただ、様々な区の行事・奉仕作業やお勤め、区費、集落のこと、共有財産など話した上で、本人に住まいを決めてもらう手順が必要だった。実際は問題なかったが、これからは必要になると思う。

副町長：移住者にも文化があり、池田のルールが正しいとは限らないと思いつつも、どう調整していくかは暮 LASSEL も悩みであり、教科書を作るとか、事前にルールを明示して理解を求めるとか、受入れ側はどうしたらいいのか聞きたい。

委員：私は 11 年前に移住したが、地域の皆さんはオープンでよくしてもらい、何も嫌なことがなかった。2ヶ月に1回みんなでお経をあげるおこ様や、半月に1回朝にご飯をお供えする御仁様を教えてもらい、私は子育て中で働いていなかったこともあり、楽しくできた。

集落ごとに温度差があるのは話に聞くので、移住者を希望するかしないかはあらかじめ集落ごとに募集をかけるべき。そうしないと後でぶつかったりするだろう。

## テーマ2：定住・移住コンシェルジュの設置と空き家の活用

### グループ1の発表

- 空き家の整備は良いことだと思う。集合住宅は制約があり、集落に溶け込むのはなかなか難しいと思う。
- 集落に誰が移り住むのかわからないのが不安要素であり、共同作業とか区費などの問題もある。暮 LASSEL のコンシェルジュは今まで移住者の情報を知っているが、それは売主と担当しか知らず、区に情報が入らないため、区長は住民と行政のパイプ役となり、秘密厳守で他言はしないようにして、所有者と区がまず話し合い、それから暮 LASSEL に登録という流れが理想的な構図ではないか。
- 空き家購入の前に集落の年間行事、区費などの情報を伝えておくと後々不安要素が減るのではないか。
- 移住者を受け入れたい集落を募集し、空き家を改修するなどして、1回お試しで住んでもらうのがいいのではないか。

### グループ2の発表

- 100件ある空き家が本当に再利用可能かどうか仕分けすべき、10件しか登録がないのが少なすぎるのでは。もっと集落からも空き家の持ち主に働きかけることをしたらいいのではないか。
- 新たに住む人が来ても、暮 LASSEL やコンシェルジュの方だけでは難しいのでは

ないか。つなぎ役として地域の中で、世話好きの方をサポートにして、集落の中で何人か登録して、その方らと住む前から話をしていくことも必要ではないか。

- 池田の家は大きいので、どのように改修すればいいのかわからない人も多いのではないか。暮 LASSEL が民間と協力して改修・活用方法の提案をできるといいのではないか。
- 更地になった土地を売りたい地主もいるのではないか。探りをいれてみてはどうか。民家の再生をするだけでなく、自分の家を建てたい人もいると思うので、空き地を斡旋できることを試みてはどうか。
- 昔から集落で取り組んできていることを集落の教科書にすると、残すべきところや変えていくべきところを見直すきっかけになるのではないか。
- いずれもつなぎ役リーダーシップ役もいなければ話は進まないのでは、いるといい。

#### グループ3の発表

- 空き家コンシェルジュについて、世話役が必要で、区長さんがすると良いのではないか。
- モデル集落をいくつか紹介し、世話役などがいると紹介するといいのではないか。
- 移住希望者に事前に集落のルールをお知らせしたり、区長会等で各集落のルールを比べたりするのも面白いのではないか。住民も移住者への理解を深められる。
- 空き家とか空き地の活用として情報も地主、区長、暮 LASSEL とのつながりで増えるのではないか。
- 空き家対策として、「ハウスリースバック」（自分の家を売り、その家にリースで借りて住み続ける）がある。家の売り主（住み主）が相続や固定資産税など面倒なものがなくスムーズに終わると。それらのキーマンが区長さんで、集落として受け入れる、移住者を受け入れるかどうかを今後話していく必要がある。

委員：池田育ちの人たちが結婚して家を建てる土地がないと聞いた。行政で宅地分譲とかしてもらいたいという意見もあったが、空き地の情報はあるのか？

委員：集落の中には昔ここに家があったけど空き地になっているところがある。町外に出ている人の話をきくと、毎年草刈りも維持も大変なので土地を買ってくれないか、無理なら引き取って欲しいという人もたまにいる。自分では対応できないので役場に言えばいいのではとお伝えしている。そういった方々が何人かいるので、自分に話もあるが

他の方もいるのでは。探せばあると思うので、その情報の活用をしてほしい。

担当：暮 LASSEL としては登録された情報を希望者にお伝えすることはできるが、登記されている方が登録の申請をでき、親戚はできない。以前、登録の呼びかけもしているが、なかなか進まないの、登録の呼びかけを地域で後押ししてもらいたい。

委員：区長さんと地主さんとみんなで宅地に良い土地を、地主さんとやりとりして登録できればいいのではないかと。町外に出た人も税金だけ払って土地を何とかしたい人はいると思う。

担当：ある方が空き家を登録したいが、その集落が移住者を来ないで欲しいという思いがある場合、どういう手続きをするか。集落で集落の教科書を作ってその物件のみ登録可能にするとか。

町土整備課課長：宅地であれば、集落として何かに転用、共同にできるもの、避難場所や共同駐車場など土地としての活用する方法もあるのではないかと。

議会事務局局長：町外の方にどうやって空き家や空き地を提供するかについて、まず集落で聞いてから暮 LASSEL で登録することが多いのではと思う。その中で池田に住んでいる方がどう利用するのか、近くの人の頼りが第1歩だと感じる。

委員長：空き地希望者がいる。今後とも地元の集落がいて、コンシェルジュがいてやり取りできればいいと思う。区長にということだったが、個人情報にも注意しながら、コンシェルジュ、暮 LASSEL への集落での協力員がいればいいのか。集落の未来をみんなで考えるとあったが、これは大事なことで、なかなか集落の将来を考えるのは難しいが、教科書作り、集落の広報・ガイドを作るとか、集落のマップ、土地や家のマップを作るなどすることが重要ではないか。

#### □ 総評

委員長：今回「すみか」がテーマだったが、3つ目の「なかま」に関わる意見も多かった。冒頭に新型コロナ問題の話もしたが、地方移住の流れが確実に起こりつつある、またこれから起こるであろう。職住接近もあるが、わざわざ満員電車に乗って通勤時間を

かけて会社に行かなくても済む時代になりつつある中で、地方に移住する人もいる。その意味で、池田町としても、「すみか」の問題はますます重要になってくるであろう。今日の議論を受けて整理しておきたいのは、プロセスという言葉が出たが、入居・移住前の話と入居・移住後の話が大きく二つある。それぞれに対応して、役場が何をすべきか。役場だけでなく、住民として入居前にどう対応する、入居後にどう対応すべきか、また、集落として対応する部分と個人個人が対応する部分もある。それを再整理すべきではないか。

次回の日程について

次回の日程は7月21日（火）、22日（水）、28日（火）、29日（水）のいずれかで調整する。

閉会